

一陣の雨 札幌 魚住あらた

けふをしも春の淡雪うそざむくつくつたり
き一陣の雨
けふをしもさくらさくらと膨らみつ擦れかむ
ままに懐かしかりき
うらうらと春の日の風ゆらぎあつづくた
りきかわたれの星
春めくを桜々をつと想ひけふは花冷えつら
らたりき
けふをしも我慾をいまし誇るなくつくづくた
りき蝶の花ばな

植物園 札幌 小国 孝徳

制服制帽なれば木戸御免の植物園来たりて芝
生に寝ころびたりき
ハルニレの茂れる園に腹這ひて応援団長の君
と未来語りき (山本武君)
シューベルトもベートーヴェンも聞こえ来ず
まして髻髪垢面の高足駄の音
白秋の「この道」作りしは北一条の何丁目な
りしや時計台の鐘
四丁目に誰を待つにもあらなくに背の丸くな
りし老が立つてる

白菊会名簿 札幌 古屋 統

白菊会名簿の順位が繰り上がり前後次第に欠
番増える
移転先不明とあるは失念か身内に強き抑止あ
りしか
偶然の氏名一致か不明者の中にいきてる旧友
がある
平成元年名簿の末尾に妻載れり子が学生とな
りし記念に
長寿者の遺体モデルとなる程に長くながくを
生きむと願へ

北海道医報人會詠草



千夜一夜 帯広 中野 知弘

雪路きて反戦デモに会ひしかばふと目につき
し「燃えよ剣」読む
日の丸に「誠」の旗を押し立てて兼定ふるふ
鞍上の夢
チギリスとユーフラテスを超え行きぬテレヴ
ィ深夜に美姫出でませず
学べよと頭なでつつ軍刀も眩しき叔父は死し
て沖繩
北の涯近き枯野の芝桜 目つむれば見ゆわが
島山は

硝煙 札幌 山口 康徳

硝煙の消えぬ間もなく生まれたる新しき国育
てすこやかに
押し寄する不況ものは続々とそを防がむと
新しき店
知床を世界遺産に奨むべく一丸たりし道民の
力は
目に入らぬ菌におかされ呻く人力たぎりて
そを打負かせよ
悲惨なる戦さも目そらす恐き菌そは名づけら
れSARSといへる